

折り紙っておもしろい

ねらい：折り紙を使って表現することを楽しむ。

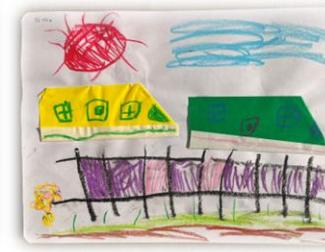
作成日：2025/11/27
対象児：4歳児きく組
作成者：小城亜矢子

次は
どうやるん
かな？

できた！

ここが
大事なとこ

今までの作品



振り返り

季節の折り紙を取り組む中で年度当初は角を合わせて半分に折ることも難しかった子ども達でしたが、いろんなものを作っていくうちに「初めから角を合わせていないと後から歪みが出てくる」と知ったり、「折り筋を付けた方が両端から綺麗に真ん中に集められる」という事がわかってきたようです。折り紙の仕組みがわかれれば完成形のイメージがつくようになったようで、「あーわかった！次はこうするんだろ？」と自分で考えて折り進めていく子も増えてきました。難しいなと思う工程も今までの経験から「やってみたらできるかも」と挑戦する姿が見られました。半分やここまでといった目印があればわかりやすいのですが、1/3とか少しだけといった子ども達にとっては曖昧な感覚も、折り紙を楽しむうちになんとなくこんな感じ？と想像できるようになってきていると感じます。

その中で「もっとこうしようか」と出来栄えを意識してしまいそうな時があります。でもそこで子どもたちに「自分でやってみる」と言われて、大切にしたいのは綺麗に作れるかではなく、自分で作るということでわかる感覚や生まれる感情だなど改めて気付かされました。

折り紙をしている時の子どもたちのぐっと集中した姿を見ると、好奇心や探求心は集中力を高めるんだなと実感します。私が思う保育に取り入れたい折り紙の魅力は間違ってもすぐに折り直しができるところや、多少破れたり歪んでも個性が光る作品になるところです。これからも子どもたちが楽しみながらも少しのチャレンジを加えた遊びを保育に取り入れていきたいなと思います。（思考力の芽生え、図形などへの関心・感覚、自立心）